

# 巻頭言

理事長 宮田 和実

猛暑、酷暑という言葉が毎日のようにテレビから流れてきます。夏の暑さは、年を追って厳しいものになっているようです。皆様、熱中症にはくれぐれも注意してください。

味蓼さんから編集長を引き継いで、今回が、二十一冊目、そして、理事長として、二冊目の「みみより誌」の発行になります。

五月の総会で、理事のメンバーがガラッと入れ替わり、新しい理事の皆さんによる積極的な活動によって、例会が運営されるようになりました。特に、青年部の皆さんは、企画から実施まで、本当に精力的に動いてくれています。既に、四月、六月の例会を担当してくれました。今まで、事務局長が事業部長を兼任して、何から何までやっていた頃に比べると、ぐっと負担が軽減されているのではない

かと思えます。ただ、青年部にすべて任せて

いる訳ではなく、

企画の段階から、きちんと理事会で審議し、相談してやっておりますので、青年部だけのための例会にはなっておりません。あくまで、担当して頂いているだけです。

ですから、古くからの会員の皆さんも、今まで同様、どしどし参加して、楽しんで頂きたいと思えます。

今まで、毎回のように顔を見せてくださった方々の顔が拝見できなくなつたようで、寂しい思いをしているのは、私だけではないと思えます。

先日、鈴木克美元会長にお会いした折、元会長がおっしゃっていたのですが、「僕が参加しても、知った顔かほとんどいなくなつた」とのこと。

確かに、六十年を超える歴史があると、世代交代はやむを得ないものがあるとは思いますが、若い人と会い、話すことも、決して時間の無駄ではないと思えます。

是非、みみより会の例会と一緒に楽しんでください。そして、お友達をどしどし誘ってください。

私事で恐縮ですが、去年、あれだけ悪かった体調も、順調に回復しつつあります。胃のピロリ菌除菌も無事に成功して、胃腸の調子も健康時の状態を取り戻しつつあります。酒量も戻ってしまったのが、少し心配ではありますが…。

腰痛も、かなり消滅して、少しずつですが、テニスも復活しています。

私個人としても、新しいみみより会員の皆様に接して、いろいろ得るところがあり、前にも増して、充実した毎日を送っています。

岡本囁さんが、「みみより俳句」の作者が減って困つていると言っていたので、参加してみようとも考えています。

雨上がり窓を開ければ蝉しぐれ

×

みやた かづみ(栃木県那須塩原市)

×